

平成 26 年度えりも地域ゼニガタアザラシ対策事業

中間報告（概要）

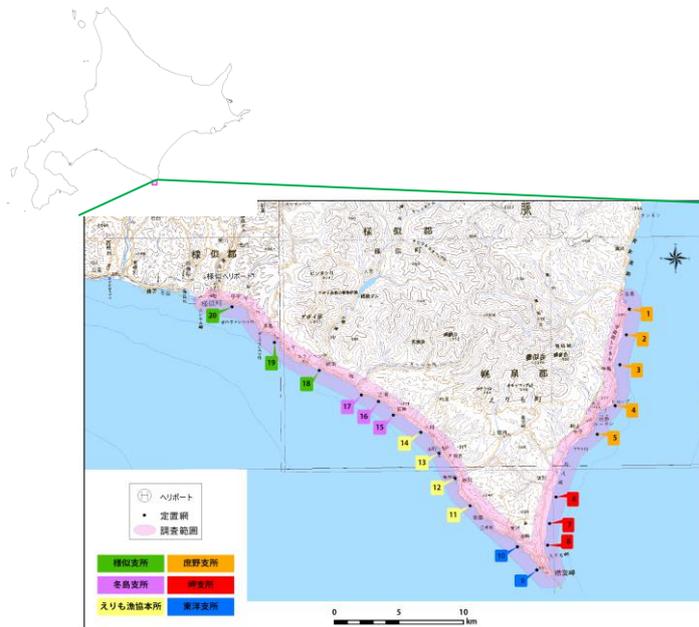
1. 調査（存続可能性の再評価・モニタリング）に関する事業

1) ヘリセンサス

・上空からのカウントにより、正確な上陸個体数を把握するとともに、陸上からの目視を同時に行い、ヘリセンサスとの誤差を算出するもの。

⇒えりも漁協管内において、有人ヘリによるセンサスを実施（8月14日）し、471頭を確認した（昨年は482頭）。

⇒襟裳岬付近において、無人ヘリによるセンサスを実施した（8月31日、10月9日、11月9日）。



2) 生態モニタリング調査

・捕獲あるいは混獲されたゼニガタアザラシの繁殖履歴調査、体長・体重・皮下脂肪厚等測定、食性分析、標識装着等を実施し、生態に関わる情報を得るもの。

⇒定置網期間中及び改良網試行期間中（下記）における捕獲・混獲個体を回収し、実施した。

3) 発信器装着による行動調査

① 上陸頻度

捕獲あるいは混獲されたゼニガタアザラシに衛星発信機を装着し、上陸頻度を調査するもの。

② 行動解析

① 同様に衛星発信器及び音波発信器を装着し、定置網への来遊頻度等の行動を解析するもの。

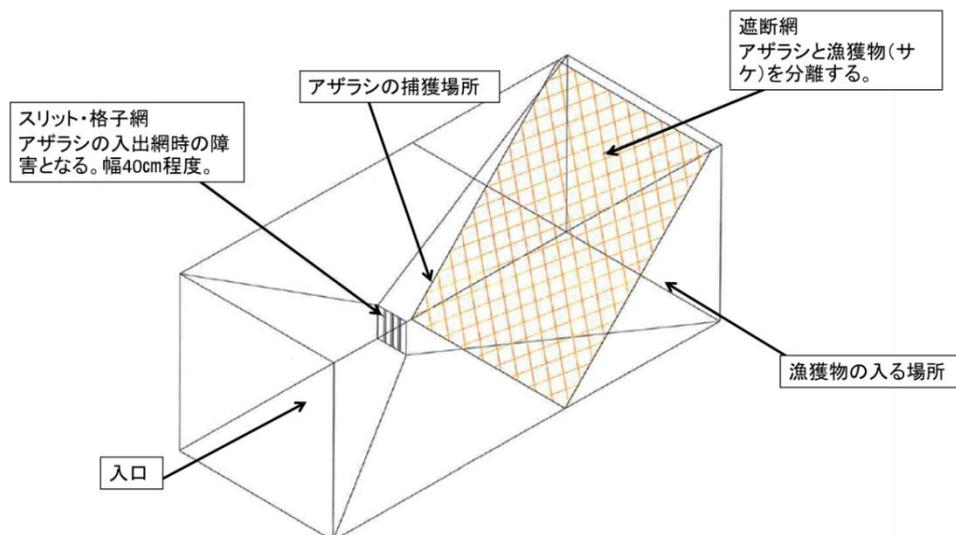
⇒定置網期間中及び改良網試行期間中における捕獲・混獲個体を回収し、実施（全14個体）した。

2. 被害防除に関する事業

1) 改良網の試行（環境研究総合推進費と連携）

- ・ゼニガタアザラシとサケの分離を目的とした遮断網及びゼニガタアザラシの入出網時の障害となるスリット・格子網を施した改良網を試行し、被害軽減効果の評価及びゼニガタアザラシの捕獲を試みるもの。

⇒えりも岬地区の漁業者の協力を得て、秋定置の漁期前（8月18日～26日）及び漁期中（10月30日～11月19日）に改良網を設置した。



<漁期前（8月）>

- ・遮断網がサケとゼニガタアザラシの分離に一定の効果があると認められた。
- ・遮断網と定置網本体の縫合の隙間を縫ってゼニガタアザラシが侵入し、遮断網の先に入っていたサケが食害にあう等の課題があった。
- ・調査開始当初、改良網に入ったゼニガタアザラシが死亡するなどしたが、改善を図り、5頭の生体捕獲に成功した。

<漁期中（10月～11月）>

- ・遮断網と定置網本体の縫合の強化、格子網の改良、ゼニガタアザラシの死亡混獲を避けるための浮きの追加及び作業性の向上等の改善を行った。
- ・漁獲量及び水中に設置したカメラの映像から、遮断網及び格子網がサケの漁獲量や体長分布等に与える影響はほとんど認められなかった。
- ・引き揚げ18回中、16回は改良網の被害はほとんど認められなかったが、2回は改良網でも多くの被害が認められた。
- ・ゼニガタアザラシは捕獲されなかった。

⇒次年度以降、改良網による被害軽減効果及びゼニガタアザラシの捕獲手法についてさらに検証が必要。

2) 忌避装置の検証

- ・過年度に引き続き、音波忌避装置の設置効果を検証するもの。

⇒小定置を含む一部の定置網漁業者の協力を得て、夏期及び秋期に設置した。